

事業者排出量削減報告書

（宛先）京都市知事		平成 30年 7月 25日					
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市宇治市槇島町24, 16番地		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 株式会社 微生物化学研究所 代表取締役社長 中谷 雅之					
主たる業種	動物用医薬品製造業				細分類番号	1 6 5 5	
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号						
計画期間	平成 29年 4月から平成 32年 3月まで						
基本方針	平成 28年度の排出量を基準に、第2計画期間中は温室効果ガス削減を前年に対して年1%削減し、2%以上の削減を目標とする。						
計画を推進するための体制	製造第2部業務課内打ち合せ会にて、温室効果ガス削減を前年に対して年1%削減を目標に計画を進捗管理する。						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (28)年度	第1年度 (29)年度	第2年度 (30)年度	第3年度 (31)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	5,712.9 トン	5,650.1 トン	トン	トン	-1.1 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	5,712.9 トン	5,436.3 トン	トン	トン	-4.9 パーセント	
実績に対する自己評価		空調用熱源機の運転時間を削減し照明器具を79台LED照明に更新した結果、温室効果ガスが62.8t削減した。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (28)年度	第1年度 (29)年度	第2年度 (30)年度	第3年度 (31)年度	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量 (労務費人数×4)	7.14	6.51			-8.82 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント
実績に対する自己評価		労務費人数が17人増加し、原単位当たりの温室効果ガス排出量が大きく減少した。					
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (28)年度	第1年度 (29)年度	第2年度 (30)年度	第3年度 (31)年度	備考	
		64.0 パーセント	68.0 パーセント	パーセント	パーセント		
具体的な取組及び措置の内容	(29)年度	ガス吸気式冷凍機の運転時間を削減する。					
	(30)年度	老朽化した蛍光灯を順次、LED照明へ変更する。					
	(31)年度	老朽化した空調機を順次更新する。					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	特になし					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	特になし					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (29)年度	第2年度 (30)年度	第3年度 (31)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン			
合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	特になし						
特記事項	超過削減量 1129.213.8						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。